



ながれ



流れる水のように ～その先へ進む力～

校長 服部 みどり

新しい年2018年の始まりです。昨年の酉年が「作物の収穫期」や「果実が熟した状態」を表していたので、今年の戌（いぬ）年は、収穫した作物をどうするのかを考え行動する年、収穫したものから新たなものを生み出す努力の年にしていきたいと考えます。

さて昨年12月、朝会で全校児童に呼び掛け、戸塚第三小学校の「今年の漢字」を考えてもらいました。「仲」「思」「運」の3文字が同数で第3位、「友」が第2位、そして第1位は、「笑」でした。「仲間の大切さを知った」「思い出がいっぱいできて思いやりももつことができた」「運動会、奇跡の同点！」「友達がたくさんできた」「全校全員が笑顔だった」などの理由に心がじんわりと温くなりました。3位までには入りませんでしたが「川」や「水」という漢字を書いてくれた人も複数いました。私たちの戸塚第三小学校と川や水の「ながれ」は深いつながりがあるということを、改めて感じました。



そこで思い出したのが、黒田官兵衛（黒田如水）の「水五訓」です。戦国時代に「豊臣秀吉の知恵袋」と言われていた人の言葉です。「水五訓」を右に記してみましたが、一日一日をどのように過ごせばよいかを考えさせられる言葉、「生き方」を示唆してくれる言葉だと思います。

「水五訓」の一は「率先垂範」ということです。誰かに何かを伝えたり何かをしてもらったりする時は、まず自分が模範となる行動をとることが大切だということ、二は、自分で

水五訓

- 一、自ら活動して他を動かしむるは水なり
- 二、常に己の進路を求めて止まざるは水なり
- 三、障害にあい激しくその勢力を百倍し得るは水なり
- 四、自ら潔うして他の汚れを洗い清濁併せ容るるは水なり
- 五、洋々として大洋を充たし発しては蒸気となり雲となり雨となり雪と変じ霞(あられ)と化し凝しては玲瓏たる鏡となりたえるもその性を失わざるは水なり

考え自分で決め、努力することで己の道を切り拓いていくこと、三は、あきらめることからは何も生まれないということ、四は、人を追いやることをせず共に頑張ろうということ、五は、いろいろな変化に対応できる柔軟性をもち、与えられた環境の中で最大限の努力をすることです。どれも「水」というものを通して、人が人としてあるべき姿を表していると思います。



1年の間には、いろいろなことがあると思いますが、自分で考え、自分でよいと思うことを選び取り、自分の行動に責任をもって過ごすことを、2018年の年頭に強く思います。子供たちには、自分の目標をたてることと定期的に振り返って確認や修整をしたりすること、人との出会いや人とのかわわりを大切にすること、互いに学び合って自分を成長させていくことを、今年も折に触れ、伝えていこうと思います。

流れる水のように、その先へと進む力を意識し、保護者・地域の方々とともに、戸塚第三小学校の子供たちの健やかな成長を促し支えていきたいと思っています。子供たちの笑顔をたくさん見ることができるよう、一緒に頑張ってみましょう。